

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月13日

## 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4674900164号		
法人名	医療法人 幸望会		
事業所名	グループホーム スマイル園		
所在地	鹿児島県 出水郡 長島町 鷹巣 3681-5 (電 話) 0996-86-1152		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年4月9日	評価確定日	平成21年4月25日

【情報提供票より】 (平成21年3月25日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成14年1月7日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤12人, 非常勤	人, 常勤換算12人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての1～2階部分		

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	5,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		650 円	

## (4) 利用者の概要 (3月25日現在 )

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名	
要介護1	2 名	要介護2	9 名			
要介護3	6 名	要介護4	1 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	88.3 歳	最低	68 歳	最高	100 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	高野医院 児島歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>当ホームは、橋で本土と結ばれた長島の中心地域にあり、町の中核的医療機関が認知症高齢者のために設立したものである。医療的なバックアップが日常的になされている。近くに同一法人が設立したもう一つのグループホームがあり、共同してこの地域の認知症高齢者の支援にあたっている。自然豊かな地域の中で、グループホームの生活は、住み慣れた今までの生活の延長上にあり、安心した暮らしが営まれている。</p>
--

## 【重点項目への取組状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>職員の研修体制については、母体の医療機関との合同研修やグループホーム間での勉強会などを行っており、改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>自己評価項目を全職員に配布し、日勤帯の職員で検討した。介護を見直す機会ととらえて、気づいたことはミーティング時に話し合っ改善している。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)</p> <p>同一法人の二つのホームが合同で開催し、情報の交換だけでなく、家族の意見やヒヤリハットの事例なども話し合われている。ホームでの日々の生活で起こる細かな課題も討議されており、改善に結びつけている。会議録もよく整理されている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)</p> <p>家族会が立ちあげられており、定期的開催され、そこでの意見は改善に活かされている。また家族との信頼関係が何よりも大切であるとの指導をしている。特に面会時には職員が密に接触して、意見を吸い上げる努力をしている。</p>
重点項目 ③	<p>日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)</p> <p>ホームで地域の行事に参加し、利用者も散歩時に声をかけ合っている。また、職員も地域のスポーツ大会にチームで参加するなど地域に溶け込んでいる。保育園から慰問に来たり、中学生の体験学習の受け入れ体制もある。</p>
重点項目 ④	

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の人々とのコミュニケーションを大事にしていきたいとの思いを込めて、職員全員で検討し地域密着型サービスとしての理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員に分かりやすい理念となっており、特に職員が笑顔で過ごすことの大切さを自覚し、職員が明るくすることが必要との認識を持つように取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームで地域の行事に参加し、利用者も散歩時に声をかけ合っている。また、職員も地域のスポーツ大会にチームで参加するなど地域に溶け込んでいる。保育園から慰問に来たり、中学生の体験学習の受容れ体制もある。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で取り組み、日勤帯で検討した。外部評価は第三者による新鮮な目と理解し、その評価は介護を見直す機会ととらえて、気づいたことはミーティングで話し合っ改善している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二つのホームが合同で開催し、情報の交換や家族の意見・ヒヤリハットの事例・ホームの日々の生活に起こる細かな事項も討議し、改善に結びつけている。会議録もよく整理されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回、町主催の地域ケア会議に積極的に参加している。担当者とも連携が取れており、何かあれば直接出向いたり電話などで協議するなど、利用者の支援に効果をあげている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	担当職員は利用者の個々の暮らしぶりなどの情報を写真入で定期的に報告している。健康状態は頻繁に電話連絡しており、金銭管理も出納帳で報告している。新職員は園だよりや面会時に紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が立ちあげられており、定期的開催されている。そこでの意見は改善に活かされている。また、家族との信頼関係が何よりも大切であるとの指導をしている。特に、面会時には職員が密に接触して、意見を吸い上げる努力をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は抑えるようにしている。新たに配置された職員にはベテランが付くように配慮し、また退職予定者には1ヶ月に亘って一緒に勤務することで利用者にスムーズに受容られている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	医療法人との勉強会や地域ケア会議への職員の参加が検討されている。ホームだけの定期的研修も始めることとなっている。資格取得支援には積極的で、費用や実技研修などの支援をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員間では体育活動などで地域の同業者と交流をしている。同一法人系の2ホームとは相互・訪問をしているが、事例研修会等を実行的に行えるよう検討中である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者にはホームに見学に来てもらい、ホールで他の利用者と話をしたりして馴染めるように図っている。サービス開始時は、慣れるまで職員が寄り添って孤立しないように配慮して支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は、地域の季節ごとの行事や食べ物の知識や技能を職員に教えており、職員もよく聞いて生活に活かしていることが多い。子育てに言及することもあり元気付けられたり共に支え合っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表現のできる利用者には、意向を確認してサービス計画の見直しをしたり、表現できない利用者は表情や言い方のトーンなどで意向を把握して申し送りなどで共有を図っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントで本人や家族の意向を確認している。素案を基にして職員でミーティングを行い意見を聞き介護計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の見直し計画を立てている。アセスメント要約を使いモニタリングしている。月1回は入居者の状況の報告を行ない、変化のある場合は見直ししている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制があり、歯科受診や理美容院行き支援・外泊・自宅訪問などの支援を柔軟に行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	設立母体の診療所の支援を受けている。ほとんどがこの診療所の医師がかかりつけ医となっており、1週間に2回の回診があり、適切な医療が受けられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	設立母体の診療所の協力があり、重度化にも終末期にも対応することとして、家族・職員・医師で方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の支援において、尊厳を損ねないように配慮し、職員のミーティングで言葉づかいなどを注意し合っている。個人情報の管理も徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりごとはあるが、利用者中心に職員がカバーし合っている。本人のペースで起床・朝食・入浴・就寝など、希望にそって支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある食事を、職員と共に手作りづくり、時間をかけてゆっくりと楽しんで食べている。おにぎりや一口大のもの、細かく刻むなど個別に工夫して食べやすいようにしている。茶碗拭きや盛り付けも手伝っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	順番を公平にして、できるだけ希望にそった入浴支援をしている。入浴剤などを使って、お風呂を楽しんでいる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜作りの手伝いや家事の手伝いなどの役割を持っている。新聞やテレビを見てすごしたり、貼り絵や体操を楽しむ利用者もいる。時にはドライブや花見の楽しみも支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は各人の能力に応じて、各々コースを違えて楽しんでいる。庭での散歩や体操があり、できるだけ戸外に出るように支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけない支援をしている。自由を損ねないように利用者各人の歩ける能力や行動パターンを把握して支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルにしたがって、年2回の訓練を行っている。火災時の地域の協力体制が確立していて、訓練時の協力を呼びかけている。災害の備蓄は母体法人と一体的に準備されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランスは栄養士に見てもらっている。水分摂取はお茶や食事のときに注意している。栄養状態のチェックもしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は 落ち着いた雰囲気になるようにテレビなどの音に注意し、日差しや照明にも配慮し、花を飾り、衛生面にも気をつけて過ごしやすく工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団やたんす・使い慣れたマッサージ器などを持ち込み自分流の居室にしている。携帯電話を持ち込んでいる利用者もいて、自由な生活をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。